

## 第 11 回「三世代をつなぐ駒カフェ」開催の報告

令和 4 年度最初の第 11 回「三世代をつなぐ 駒カフェ」が、2022 年 4 月 30 日（土）14 時 30 分から 16 時 30 分まで、Zoom ミーティングを利用して開催した。在校生対象の開催を予定していたが、申し込み締め切り日までに在校生の参加申し込みはなかったが、中 1 の保護者 1 名から参加の問い合わせがあり、スタッフで検討の結果、保護者 1 名とスタッフが参加する駒カフェになった。今回は、①学習サポート、②デジタルとの付き合い方 と二つのテーマをいただいた。

駒カフェは、最初に参加者が自己紹介と今感じていることなどの話からスタートして、二つのテーマについての話が展開された。自分が学生だった頃と今を比較しながら、子どもたちの自立・自主性を育てるためにどうするかなど活発な意見交換をすることができた。

### 参加保護者の感想

第 11 回駒カフェに参加させていただきました。在校生対象でしたが、ちょっとした手違いより保護者対象と思い、、、参加です。笑。しかし温かく受け入れていただき、多くのことをスタッフの方からアドバイスいただけました。思えば、私の場合、スタッフ世代（第 7 回生）の方々は自分の親戚でないと話すことの少ない世代の方だったわけです。この加速し過ぎたかのような現代において、10 歳違えば違う環境で育ったといっても過言では無いか！？という中で、異なる環境&駒東という同じ文化の方に子どもたちも是非触れ合ってほしいと思いました。息子に話すと、参加はめんどいなー、、、友達も参加するなら参加するかなあ？などと言っていました。アナウンスの仕方やちょっとした工夫で参加しやすくなり、この場が活性化することを願います。そして子どもたちなりの温故知新を模索して欲しいなー。

### スタッフの感想

- ① 今回は、保護者の方と二つのテーマでお話をしましたが、特に印象的だったのは「デジタル(ゲームとの付き合い方)」でした。時間の配分、使い方についての考

え方になりますが、それを超える問題が見えてきた事です。それは、今までのゲームは「現実」と「仮想」の世界がはっきりと分かれていたと思いますが、Second Lifeに始まりメタバースへと進化してきた今の「仮想」は「アバター」や「兌換性のある仮想通貨」などにより「現実」との境目がはっきりしなくなっている事です。時間の浪費のみならず、「仮想」への逃避が現実の世界により近づいてきていると感じます。この意味でも放置できない事で、しっかりと考え方を明確にする必要があると感じました。近未来では、今までの単なる「ゲーム問題」ではなくなってしまうのだと危惧します。



- ② 第11回駒カフェでは、ゲーム依存や受験が話題になった。活発な談義は、興味深く、楽しいものであったが、さらに余韻の残るカフェでした。学生のおかれた生活環境は、各世代で大きく異なる。親子の間の差を、冷静に見られるのが3世代を繋ぐカフェの良さと感じました。7回生OB（75歳）が、60年若返れば、15歳と対等に話せる。30年若返れば、45歳と対等に話せる。各世代が、気楽に話せるようになった、豊かな駒東風土を感じます。7回生が現役の時、駒東で得られなかった伝統は夢でした。少し長くなりますが、アフターカフェとして、引き起こした7回生OB同士のミニカフェを、私のこころの騒めきとしてご報告致します。第11回駒カフェの翌日、駒カフェOB、Kからの電話。Kは今回の駒カフェでの気持ちの高まりを私に吐き出したかったのだろう。わたしも60年前のKとの駒東世界に遊ぶうちに、引きずり込まれ、自分の駒東世界とKとを対比しながら、聞き役に回った。豊かな昔の記憶も剥がれ落ちるものは削ぎ落とされる。実はKのことだったのかと、知る人ぞ知る世界レベルのK。現代の私たちの生活は彼がいなければ少し様相が違っていただろうと私は感じている。Kの際立った個性と共に歩んだ楽しさを久しぶりに確認できた。駒カフェでは、いろいろな人との触れ合いを若い人（生徒、保護者）たちに見せてあげたい。どうぞ興味のある話題のテーブルに、ご参加ください。お待ちしております。
- ③ 参加された保護者の生徒は、とてもポテンシャルが高いのだと感じました。そして、小学4、5年のときには好奇心と集中力を発揮し学習することをたのしんでいたが、小学6年になり受験が前面に出てくるようになって勉強嫌いを宣言したというのは、なにか分かるように思いました。個人的な一般論的見方ですが、

日本の中学生、高校生は、受験という手段が目的化し、その中でクラブ活動が逃避場のような位置づけになっているのではないかという印象を受けます（モラトリアムとしての必要性はあるかもしれませんが）。こうした純粹培養的な環境ではなく、今日の世界が抱えている多数の深刻な状況とともに学問の崇高さにふれる機会を10代から作ってはどうかと思います。

- ④ 参加された保護者のご息のよいところをたくさん教えてください、まるでお子さんがいるかのように感じながらお話を伺いました。子どもは成長過程で、保護者を安全基地として様々なチャレンジをし、しだいに仲間中心の生活へと変化していきますが、その移り変わりの頃に受験勉強を集中的に行うのが中学受験の経験者だな、と思いました。学校生活はもちろんのこと、様々な体験や人との出会いは、興味関心の幅を広げ、「やりたいこと」を見つけるきっかけにつながると思います。デジタル化が進む世の中で、豊かな経験を育む機会を作ることは、ますます大切になるのではないのでしょうか。駒カフェがその一助になればよいのですが、さらなる工夫が必要だろうとも感じます。
- ⑤ 生徒対象の設定でしたが中1の保護者(お母さま)お一人との会になりました。2時間 お一人に対しては長かったかな。いつも私は思うのですが この会の現状はこれでいいのかな……と。老齢になった我々が自分の思いを話せることは楽しいこと。そんな機会をもてたことは嬉しいことですが それを受け止めてくださる方にとっては どうなのかな……と。今回のお母さまも賢明な方でした。御息がゲームを長時間やっていることが気になりとお話になりました。御息は入学して1か月。苦労した受験勉強が終わってゲームでも何でもやっていたい時期です。それが自然だし彼が成長するのに必要な時間だと思います。けして時間の無駄ではありません。彼はやがて自分のおかれた位置に気づきます。好奇心あふれる彼はそこから新しい何かを求めていきます。刺激を与えてくれる先生・先輩・仲間・本・音楽・美術品・芝居などなどがあらわれるといいですね。
- ⑥ 中学1年の積りが、お母様との駒カフェ。「学習サポート、デジタルとの付き合い方」という話題では、受験勉強に対する思いが印象的で、受験時代を思い出すきっかけになりました。駒カフェで出た話題とあわせて、駒東在学時を思い返した感想です。受験勉強から60年近く経ったことになりましたが、その頃に読んだ本や興味を持ったことは、今も頭に浮かぶのに、大変で苦しかった勉強のことが思い出せません。小さい頃から読書は苦手でしたが、受験の頃に勉強をしている振りをして、隠れてできたのは、唯一、読書(注)でした。親は分かって黙認？も

し、ゲーム機に時間を使っていたら、どうなっていたでしょうか。受験勉強としては、3冊（化学、物理、地理）の参考書を各1ヶ月の計画で読んだように思います。職員室にサンプルで並んでいたチャート式\*\*で、ラッキーなことに1冊を無償入手。残念ながら2冊は購入。この勉強も、結構、楽しい時間でした。この時期に読んだ本の影響で、志望大学と専攻が決ったように思います。その後、興味を持った研究・開発に携わり、天文と登山は趣味となりました。憧れだったマッターホルンにも登りました。振り返ると、中高で見た夢の幾つか（多く）を実現する1ステップに、受験があったように思います。

注：「数学入門」（遠山啓）、「宇宙と星」「宇宙空間への道」（畑中武夫）、「アルプス登攀記」（ウィンパー）、「海底2万里」（ベルヌ）、方丈記、徒然草、岡潔・小林秀雄対話、「Uncle Tom's Cabin」原書（ストウ夫人）、他

- ⑦ 今回も新型コロナを考慮してZoomでの開催でした。保護者の参加者が1名でしたが、保護者の疑問・質問などの発言をなるべく多くして、その発言を受けて、OBスタッフが様々な視点からの発言することを心がけました。会話のキャッチボールが続き、話はさらに深くなっていったので、私も興味深く話を伺うことができました。在校生とも、駒カフェで話をしたいと思っています。お友達といっしょに参加するのも大歓迎です。世代を超えた駒場東邦は縦のつながりを実感してほしいです。一度は駒カフェがどんどころかを見に来てください。お待ちしております。

第11回駒カフェの報告をご覧になって、興味を持ち、参加してみようかと思われた方は、下記に記載の運営事務局までご連絡願います。次回以降の駒カフェ開催案内をメールで送らせていただきます。駒カフェ📍でお会いしましょう。



「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩 誠（駒場東邦7回生/前スクールカウンセラー）

平野 勲（駒場東邦スクールカウンセラー/前校長）

連絡先 [komacafe1540001@gmail.com](mailto:komacafe1540001@gmail.com)